

登録コード	UAA31500	開講年度	2026			
授業題目	日本文学実践演習				担当教員	渡邊 匡一
					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	
				授業形態	演習	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				日本文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を学ぶことにより、専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を涵養する。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				日本文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を実践することにより、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を涵養する。	
(2)授業の概要	上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・課題発表を往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生には課題論文の読み込みや、資料読解・解読の実践を課す。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（全15回の概要説明） 第2回：日本文学研究史上の問題―特に散文に関して（基礎講義） 第3回：日本文学研究史上の問題―散文研究の課題（課題発表） 第4回：文献資料収集に関する問題―原資料の搜索と活用（基礎講義） 第5回：文献資料収集に関する問題―データベース活用についてのディカッション（課題発表） 第6回：文献資料解読に関する問題―くずし字解読の基礎（基礎講義） 第7回：文献資料解読に関する問題―原資料の解読と解釈・『布引観音縁起』『御嶽神社祝詞』における釈教歌を題材に（課題発表） 第8回：データ解析に関する問題―仏教宗派による聖教の特徴（基礎講義） 第9回：データ解析に関する問題―仏教宗派による聖教の特徴（課題発表） 第10回：データ解析に関する問題―解析したデータをどう活用するか（基礎講義） 第11回：データ解析に関する問題―各自のデータ解釈とディスカッション（課題発表） 第12回：文献資料調査に関する問題―寺社所蔵資料（聖教）の保存と活用（基礎講義） 第13回：文献資料調査に関する問題―寺社保存資料（聖教）の实地調査（課題発表） 第14回：実証研究に関する問題―説話本文と仏菩薩の総合的な研究について『今昔物語集』所収の靈験譚を題材に（基礎講義） 第15回：実証研究に関する問題―各自が見出したテーマによるディカッション（課題発表） 定期試験は実施しない。					
(4)成績評価の方法	各課題発表で行うプレゼンテーション（60点）とディスカッション（40点）で、到達目標への到達度を課題評価点ではかる。 100点満点中、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合 は単位認定しない。					
(5)成績評価の基準	【秀：卓越している】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【優：かなり上にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【良：やや上にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、高い水準にある。 【可：やや下にある】日本文学における韻文研究について、文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学術的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	各回において扱うテキストの事前読み込みは必須とする。また、実習に際しては、事前に十分な準備を整えること。特に、くずし字の読解には相応の時間を要する。 各回において学修した内容を定着させ、得た知識を実際に運用できるよう復習することを事後学習とする					
(7)履修上の注意	授業内で取り上げる話題は、テーマを考える上ではごく一部の内容に留まるものなので、事前事後学習を含めた受講者の積極的な学びの姿勢を求める。 なお、出席は前提となるので、無断欠席や理由なき遅刻・早退は認めない					
(8)質問、相談への対応	メール連絡・担当教員のオフィアワーにおいて対応する。面談を希望する際は、事前に必ず連絡を取ること。kwata@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。					
【参考書】	【シリーズ】日本文学の展望を拓く5『資料学の現在』（小峰和明監修、笠間書院2017）、他。					